



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月7日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社

上場取引所 大

コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西田 寛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部部长

(氏名) 長尾 拓昭

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	8,824	0.1	551	△4.3	504	△1.7	403	4.8
23年3月期第3四半期	8,820	△1.5	576	△22.0	512	△21.3	385	△17.4

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 387百万円 (△4.5%) 23年3月期第3四半期 405百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	20.27	—
23年3月期第3四半期	19.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	15,884	4,184	22.7
23年3月期	15,990	3,845	20.6

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 3,598百万円 23年3月期 3,297百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,800	2.3	500	32.6	400	34.3	280	△1.3	14.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	20,000,000 株	23年3月期	20,000,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	96,056 株	23年3月期	94,924 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	19,904,668 株	23年3月期3Q	19,929,195 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から一部回復の兆しが見られましたが、欧州の経済危機等による世界的な景気の停滞、円高の進行等により先行き不透明感が続いており、経営環境は依然として予断を許さない状況にあります。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、積極的な営業活動を実施し、業績の向上を図るとともに、さらなる事業基盤の強化のため、安全輸送への設備投資を進める一方、お客様に喜んでいただける商品の開発やサービスの提供に努めました。

また、当社グループでは、CSR（企業の社会的責任）活動に注力し、東日本大震災の被災地域の皆様への支援活動として、お正月におせち料理をお届けする「東北へ 京のこころを『おせち』に詰めて」プロジェクトに取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は8,824百万円（前年同期比4百万円、0.1%増）となり、営業利益は551百万円（前年同期比24百万円、4.3%減）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は504百万円（前年同期比8百万円、1.7%減）となり、特別利益および特別損失を加減し、さらに法人税などを控除した結果、四半期純利益は403百万円（前年同期比18百万円、4.8%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、秋の繁忙期間には、紅葉の見頃が比較的長く続いたことや「京都・嵐山花灯路」の来場者数が過去最高であったことなどにより、嵐山を訪れる観光客が戻りつつあるなか、「嵐電一日フリーきっぷ」や「京都地下鉄・嵐電1dayチケット」など企画乗車券の拡販策として、京都を観光コースとする高速バス、高速ツアーバスとセットにした商品の発売や関連イベントを実施して、嵐電の利用促進に継続して取り組みました。

また、東日本大震災による被災地の復興を願い、嵐山駅に「祈りの木と鐘」を、四条大宮駅に「祈りのクリスマスリース」を設置したほか、乗車料金の一部を義援金にあてる慈善ライブ電車「チャリティートレイン」の運行や「D-KLIVE 祈り in 嵐山法輪寺2011」などを実施しました。

バス事業におきましては、京福バス(株)では、路線バス事業で福井市の新たなコミュニティバス事業に当社グループとして対応し、3つの地域で試行運行したほか、福井市南西地区のショッピングセンターを乗り継ぎ拠点とし、幹線系統とフィーダー（枝線）系統の機能をバスとタクシーで分担させる新たな交通体系への試行運行を実施しました。また、高速バス事業では、ホテルや観光路線バスを組み合わせたセット券を発売するなど、増収に向けた新たな商品開発に取り組みました。

京都バス(株)では、一般乗合事業において、秋の繁忙期間の天候不順により運送収入が低調に推移したことや原油価格上昇にともなう燃料費等の経費増があるなか、一般団体輸送、新規契約輸送の受注など、営業強化や収支改善に向けた諸施策を実施しました。

以上の結果、運輸業の営業収益は5,904百万円（前年同期比88百万円、1.5%減）となり、営業利益は246百万円（前年同期比49百万円、16.7%減）となりました。

② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスでは、福井県坂井市三国町の温泉付分譲宅地「みくにグリーンヒルズ」や福井市の「開発（かいほつ）」の各分譲宅地を継続して販売したほか、新たに滋賀県草津市の土地分譲に取り組みました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、秋の繁忙期間から初冬にかけての「宝厳院夜間特別拝観」や「京都・嵐山花灯路」の開催に合わせて、同スクエア内のテナント各店と連携し、営業時間の延長や「お楽しみ抽選会」を始めとする集客イベントを実施するなど、販売促進に取り組みました。

三国競艇場では、ご来場者に快適な環境でのレース観戦を提供できるよう、競艇場諸施設の保守管理に努める一方、「外向舟券発売所」での場外発売日数を増やし、増収に努めました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,653百万円（前年同期比13百万円、0.8%増）となり、営業利益は214百万円（前年同期比36百万円、14.4%減）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「JR博多シティ」内の「京都ぎをん八咫(やた)」は、ランチタイムを中心に好調に推移したほか、JR名古屋駅前ルーセントタワー内の「中国料理 吉珍樓(キッチンロウ)」では、企業や学校などへの徹底した営業強化やオペレーションサービス向上をはじめとする種々の増収策を講じ、厳しい外食環境下において、好成績を上げました。京都府八幡市の「やわた流れ橋交流プラザ『四季彩館』」内の「八幡家」では、地元食材を活用したランチビュッフェ、ディナービュッフェを実施し、好評を博しました。

物販業におきましては、フラワーショップ「BOOM(ブーン)」では、JR京都駅構内への臨時出店やウェブサイトを利用した商品販売を開始するなど、PR活動と販売促進に取り組みました。また、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」内に夏季のビアガーデン(RANDEN EKI-BEER 2011)に続く直営臨時店舗「駅のおでんや」を出店し、予想を上回るお客様にご来店いただきました。

また、新たな取り組みとして、ウェブサイトでの物販事業「通販店舗『京のこころばせ』」を立ち上げました。現在はプレオープン段階の店舗ですが、今後は商品開発や情報発信に積極的に取り組む予定です。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,745百万円(前年同期比72百万円、4.3%増)となり、営業利益は89百万円(前年同期比67百万円、304.9%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、投資有価証券の売却による減少などにより、前連結会計年度末に比べ106百万円減少し、15,884百万円となりました。負債は、未払金の支払による減少や賞与引当金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ445百万円減少し、11,699百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、当期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ338百万円増加し、4,184百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

前回発表時(平成23年5月11日)の通期の連結業績予想を変更していません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,222	1,251
受取手形及び売掛金	1,048	1,082
販売土地及び建物	45	40
商品及び製品	27	23
仕掛品	9	39
原材料及び貯蔵品	62	63
前払費用	35	33
繰延税金資産	15	6
その他	72	94
貸倒引当金	△16	△16
流動資産合計	2,522	2,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,046	8,112
機械装置及び運搬具(純額)	1,043	927
土地	2,374	2,454
建設仮勘定	93	125
その他(純額)	880	826
有形固定資産合計	12,438	12,447
無形固定資産		
その他	145	125
無形固定資産合計	145	125
投資その他の資産		
投資有価証券	536	350
その他	325	318
投資その他の資産合計	861	668
固定資産合計	13,446	13,241
繰延資産		
社債発行費	21	25
繰延資産合計	21	25
資産合計	15,990	15,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66	75
短期借入金	4,172	4,017
1年内償還予定の社債	287	420
未払金	765	367
未払法人税等	60	105
未払消費税等	60	86
賞与引当金	240	80
その他	558	652
流動負債合計	6,211	5,807
固定負債		
社債	1,054	1,309
長期借入金	2,792	2,611
リース債務	537	499
長期未払金	745	707
繰延税金負債	290	212
退職給付引当金	198	216
役員退職慰労引当金	111	104
その他	202	230
固定負債合計	5,933	5,892
負債合計	12,145	11,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	1,999	2,363
自己株式	△13	△13
株主資本合計	3,256	3,619
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	△21
その他の包括利益累計額合計	41	△21
少数株主持分	547	586
純資産合計	3,845	4,184
負債純資産合計	15,990	15,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業収益	8,820	8,824
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,128	8,165
販売費及び一般管理費	114	107
営業費合計	8,243	8,273
営業利益	576	551
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	5	4
負ののれん償却額	2	2
雑収入	34	30
営業外収益合計	43	37
営業外費用		
支払利息	90	75
社債発行費償却	2	4
雑支出	14	5
営業外費用合計	107	85
経常利益	512	504
特別利益		
補助金	19	12
投資有価証券売却益	—	7
固定資産売却益	62	—
工事負担金等受入額	0	—
特別利益合計	83	19
特別損失		
固定資産除却損	11	—
ゴルフ会員権評価損	1	—
固定資産圧縮損	1	—
特別損失合計	14	—
税金等調整前四半期純利益	581	523
法人税、住民税及び事業税	114	128
法人税等調整額	29	△55
法人税等合計	144	72
少数株主損益調整前四半期純利益	437	450
少数株主利益	52	47
四半期純利益	385	403

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	437	450
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△31	△63
その他の包括利益合計	△31	△63
四半期包括利益	405	387
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	354	341
少数株主に係る四半期包括利益	51	46

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,972	1,411	1,436	8,820	—	8,820
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	20	228	237	486	(486)	—
計	5,993	1,639	1,673	9,306	(486)	8,820
セグメント利益	296	250	22	568	7	576

(注) 1 セグメント利益の調整額7百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,883	1,438	1,502	8,824	—	8,824
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	20	214	243	478	(478)	—
計	5,904	1,653	1,745	9,303	(478)	8,824
セグメント利益	246	214	89	550	0	551

(注) 1 セグメント利益の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。